



令和4年度第2回減容化技術等検討ワーキンググループ での指摘事項とその対応

2023年9月27日

環境省環境再生・資源循環局

主な御指摘事項とその対応について

	主な御指摘事項	対応方針案
分級処理技術	分級処理で得られる粗粒分が8,000Bq/kgを超過する可能性がある。インプットの濃度を制限するなど、適用限界の検討が必要。	実証事業の成果を踏まえ、分級技術を適用する放射能濃度の設定を検討する。
	湿式分級処理で生じる脱水ケーキ(細粒分)について、処分の方法の検討が必要。	脱水ケーキの処分方法については、技術の組合せにより複数ケース想定する。
	8,000Bq/kg以下なら使えるという訳ではなく、追加被ばく線量が1mSv/年以下になるよう、マネジメントが必要。	適切なマネジメントの方法を今後検討する。
	湿式分級処理で水の再利用が可能かどうかはコストに影響するので、評価が必要。	水の再利用も評価の観点として考慮する。
	技術の比較のため、エネルギー収支の確認が必要。カーボンアカウンティングの視点も必要ではないか。	今後の評価において、エネルギーの観点での評価を検討する。
熱処理技術	運転時のメンテナンスのため、装置内に滞留して残る放射性物質がどれくらいあるか、どこに蓄積が起こるのか、検討が必要。また、装置内への滞留も含めた放射能収支の評価が必要。	これまでの実証事業等での知見も踏まえつつ、放射性物質の滞留などについての情報を今後整理する。
	生成物の物量が2倍を超えるケースもあるのは、再生利用の大きな留意点ではないか。また、生成物の性状が土壌ではなくなっていることも記載があっても良い。	再生利用における留意点として整理する。
	ばいじんの処理・処分の取扱いについて整理しておくべき。	ばいじんの処理・処分については、今後の技術の組合せの議論のなかで整理する。

主な御指摘事項とその対応について

	主な御指摘事項	対応方針案
安定化処理技術	ジオポリマー固型化はチェコ、スロバキアで実績あり。	実績について、今後資料に反映する。
	コストは(安定化処理のみの)単独プロセスでなく、全体プロセスの中で評価すべき。	コストの検討・評価の方法について、今後整理する。
	ばいじんの直接固型化は既に実機が稼働している。	実績について、今後資料に反映する。
	充填率のみで優位性を評価することが適切か、今後整理すべき。	優位性の評価方法については、今後見直しを行い、整理の仕方を検討する。